

輝く！女性部＊青壮年部

女性部伊豆太陽地区本部は「いきいきライフセミナー」という各種教室を毎年開催しています。健康・手芸・料理・宮農加工（加工食品）・陶芸クラブなどを開講。その他にも、グループ活動として、女性部員自らが立ち上げた大正琴・食品加工・グラントゴルフ・給食ボランティアなど、多様なグループ活動を仲間と一緒に楽しく精力的に行っています。

平成31年4月には、南伊豆町にオープンしたJA農産物直売所「農の駅」は、はばれ売店を盛り上げたいと、南部支部の60〜70代の部員が中心となって「つくしんぼ」という加工クラブを立ち上げました。

地産地消や伝統食、家庭の味を基本に、地元農産物をふんだんに取り入れた弁当やそう菜類をJA支店で調理し、同直売所で販売しています。

中でも、おにぎり2個とそう菜約7種類入りの「おにぎり弁当」（税込350円）が人気で、地域の会議やイベントなどで注文を受けています。

同メンバーは「自分たちもまだまだ



加工クラブ「つくしんぼ」のメンバー



地場産や旬の食材で作る「つくしんぼ」の手作り弁当

「地域に貢献している」と自信が湧き、仲間と一緒に集まって調理することを楽しんでいます。



JA女性部

伊豆太陽地区本部 部員自らが立ち上げた 多様なクラブ活動

青壮年部三島函南地区本部は、同地区内の各地域をまたいで強く結びつき、地域貢献や産地振興に力を入れています。

例年11月23日に行われている「新嘗祭（にいなめさい）」は、JA青壮年部と三島商工会議所青年部が共同で運営。部員が持ち寄った地元農産物で作る全長5メートル、重さ3トン超えの野菜宝船が三嶋大社に展示され、多くの人が訪れます。令和3年度は、野菜宝船に使った野菜を熱海市伊豆山地区土砂災害の被災者の皆さまに寄贈。約2千世帯に気持ちを込めた野菜でエールを送りました。

地域農業の活性化や産地振興では青壮年部が核となり、イベント開催や講習を通じて、対外的なPR活動を実施。コロナ禍で外食需要が低迷した際には、取引のある地元飲食店を応援しようと「外食補助事業」を企画して、利用を促しました。

その他、情報発信力の強化に写真撮影の講習会を開催。消費者の興味をひくような写真の撮り方を、実技



部員が一致団結して地域農業の活性化に取り組む



地元農産物の野菜宝船

三島函南地区本部 熱烈！強固な絆で 地域貢献・産地振興を図る



JA青壮年部

を交えて学び、部員個人でもSNSを基盤とした発信力をつけています。

錦田・北上・坂・中郷・函南の5地区が一致団結し、農業を通じて地域をけん引する存在になっています。



JA自己改革 ～実はSDGs～

©みんなのよい食プロジェクト



1 取引成立の手打ち 2 土井 貴さん 3 史上最高値の「茶寿」

最高値に込められた
農業所得向上と
生産拡大への思い



静岡茶市場の初取引が4月18日に行われ、当JAの富士宮茶業委員会の手揉み茶「茶寿」が、史上最高値の196万8000円で取引されました。

買い手は当JA理事で、富士宮富士山製茶合同会社代表社員の土井貴さん。土井さんに最高値で買いつけた思いを聞きました。

「合併のお祝いもあるので、それなりの金額は覚悟していましたが」と振り返る土井さんですが、成立させたのはJA自己改革が目指す、農家組合員の農業所得向上と生産拡大への思いがありました。

土井さんは「最高値の報道で消費者は、あらためて静岡茶のブランド力を認識したと思います。富士宮茶でも沿津茶でも富士茶でもなく、「静岡茶」というブランドで全国に向けて発信することが大切です」と語ります。

「例えばルイ・ウイトンというブランドのもとに、モノグラム、ダミエ、ヴェルなど多くの種類がありますが、あくまでブランド力はルイ・ウイトン。お茶も同じで、まずはオール静岡の「静岡茶」でブランド化したい。最高値は消費者に知ってもらおうきっかけづくり。8JA合併を機に、あらためて「静岡茶」でのブランド化を県東部から呼びかけたのです。その上で各産地茶は消費者が選んでくれるのでそれぞれ特長は守ってほしい」と、茶農家の所得向上や茶生産拡大には、オール静岡で挑むことが重要と土井さんは訴えます。

「静岡茶に迫る勢いの鹿児島茶にも、知覧、志布志、頰娃（えい）など各産地がありますが、「オール鹿児島」でのブランド化が発展に奏功したのでは」とも分析します。